

白舟 舟口

第18卷 (昭和20年) 12月號

卷 頭 語

永 村 清

戦争は吾等の信念を空にして完全なる敗北をもつて終つた。今年8月15日終戦の大詔拜して吾等一億臣民はすべて地に伏して慟哭し忠誠の至らざりしに慚愧せざるものは無い。思ふに三千年の光輝ある皇國の歴史を一段落として更に新たなる國家を再建せねばならぬ未曾有の國難に遭遇し、單に敗戦といふ悲慘事に加へて父祖以來三千年間吾人の血の中に流れ傳はつたる思索の方向を180度轉換しなければならぬこととなつた。正に非常時である。しかも戦争四年を顧みるとき、二ヶ年を経過したる一昨年の秋米國が航空母艦を主隊とする機動部隊を編成して南西太平洋に反攻し來り、我はその制空戦に敗れ、ガダルカナル島より敗退轉進して以來戰勢は必ずしも好轉せず、殊にマリアナ群島を失つてからは聯合軍の進攻は頗るその速度を加へ來り、同時に我が本土に對する空襲は次第に激化し被害は日を逐うて増大し、B29の爆音を聞

きては萬民安き心地もなしといふ有様となつた。事實はこの當時までに既に相當の海上輸送力を失ひ多分の影響を受け、みたる軍需生産は戰局の一段の急迫と共に本年に入りては逆に愈々困難の度を加へ、また戦争の長期化に伴ふ民力の疲勞も漸く顯著となり、このまま長期戦を戦ひ抜くことは頗る憂ふべき状態を示し來つた。終戦後の臨時議會に於て東久邇首相宮の御説明の中に次の如き一節がある。

「本年五月頃の状況におきまして汽船輸送力は船舶喪失量の増大と數次に互る船腹、南方抽出等に依り、開戦當初の使用船復の概ね四分の一程度を保持するに過ぎず、しかも液體燃料の不足と聯合國軍の妨害激化等によつて運航能率は著しく阻害せられ、殊に繩戰の終末以來聯合國軍航空機の威力の増大に伴ひ大陸との交通すらも至難の状態に立到り、一方機帆船輸送力も燃料不足と聯合國軍の妨害

目 次

卷 頭 語	永 村 清	117
【座談會】 戰時造船を顧る		
鋼 造 船	山縣 昌夫・小野 暢三 山中 三郎・神原 敏止	119
木 造 船	山縣 昌夫・渡邊 浩 山根 貞一・瀧山 敏夫	131
木船製造講座 (終)	高 木 淳	145

天 然 社 發 行

昭和五年十一月二十五日 第三版部訂改訂 昭和二十年五月五日 發行